

令和6年7月24日総合計画審議会専門部会A-2

参加者：阿部委員 飯島委員 大塚委員 丹野委員 平谷委員 欠席：梅津委員
ファシリ：高桑さん 板書：大石

①障がい者の自立支援と社会参加の促進

《事前質問以外で聞きたいこと》

委員

障がい者の生活体験住宅とは？

委員

障がい者住宅は普通の住宅 利用料300円/日 内装、家具等を揃えている。
障がい者の一人暮らしの検討を促す場 長くて1か月程度

森健康福祉課長

住宅はバリアフリー化されているものではない。

委員

23年度の施策の経費として割合は障がい福祉費の中では大きいのか？

森健康福祉課長

サービス給付費の額が大きく、比較がむずかしい。

《評価》

委員

妥当 住民意識調査の数値 意識レベルはもともと低い
支援体制全体の強化 されていると思う
政策認識、課題認識ができていていると感じている。

委員

妥当 ボリューム大きく、多岐にわたる。少ない人数でこなしており前進している。
一生懸命に課として実施している。

委員

妥当 充実しつつある。今後期待したい
ブルーハンカチプロジェクトでもご協力いただいている。

委員

妥当 障害者施策は難しい。住民意識調査の回答を見た時に当事者が回答しているように見えたので、当事者に納得いただいている。

一般就労は後期になれば後期になるほど目減りする。3人が続けばずっといいと思うがアプローチを総括に記載してもらえれば次年度評価につながる。

《今後の取り組みに関する意見》

委員

地域社会の理解促進 グループホームとの連携

町民、地域企業を巻き込んだ就労支援

委員

多種多様な障がい者がいる。町民が障がい者に関心を持つことが必要

参加する、経験する、思いやりを持つこと 多くの町民の方が重いやり持つようになるといい

委員

自分らしく、安心した生活のため 地域理解が必要。今後の促進に期待したい。

学校教育現場でも障害者の地域理解が必要。今後は学校との連携を

就労支援は町内の人材派遣会社との連携を

委員

理解促進が必要だとは思う。

障がい者の立場ではなく、本人でないからわからない

理解促進が増したからといって数値が上がるのか？

障がいの特性の理解をすすめるのは必要だが、

指標の持ち方が違うのかなと思う。本人の意見が必要だと思った。

森健康福祉課長

就労支援 就労は徐々に繋がりにくいのはそのとおり。個々のケースに対応したい。今年度も2～3人就労になった。基幹相談支援センターの設置を考えている。障がい、高齢者、子ども等の各専門の相談機関と連携したい。

②互いに認め合う地域社会の形成

《事前質問以外に聞きたいこと》

委員

成年後見制度について 委託業者との打ち合わせの回数

市民後見人の人数を増やす方策

権利擁護体制 司法分野との連携体制の具体的なもの？

佐々木高齢者支援課長補佐

打ち合わせ毎月1回情報交換を実施 案件が生じれば随時

市民後見人の養成 令和4年度9人受講 現在36人が市民後見人となっている。

人数が少ないという認識はない。ただ、独立で実施する人がいないというのが課題

司法との連携 令和7年度からを想定しているが、土地建物の整理など法的な課題を支援いただけの親族がいない人が多い。法的な課題対応がケアマネでは難しいので申し立てに結び付けたい。その前段の支援、司法書士、行政書士に事例の検討のアドバイスの場 後見人の選任を早める術となる

《評価》

委員

成果指標の数値が大きく変わった理由は？要因が気になる。

妥当 取り組みを評価。しかし、子どもたちを対象としているので成果指標に影響してこない
人権擁護の活動の努力は理解するが それが成果指標と一致しているのか

委員

妥当 総括を見て取り組みで活性化されている。 今後の取組にも期待。

委員

内容が伴っていない。課題が大きすぎる。町民の認識として何かやっているのではないかという形になっているのでは。業務的にこなすことが大変だと思う。評価としては、少しずつ前進しているのではないか。

委員

妥当 高齢者に対する支援対策は充実していると思っている。

《今後の取り組みに対する意見について》

委員

この3年間は横ばいであった。数字は高くなるだろうと思っている。

多分アンケート 不満がある人がアンケートを出す。

不満が跳ね返った結果。年取が少なくて不満 上司は差別していないと言っても差別がある。見えない不満があるのではないか。年取が低い、女性へのアプローチをしないと数値は上がらないのではないか？

権力をもっている人（不満をもっている回りの人）に教育をしなくては数値が上がらない。

委員

ワークショップ形式での男女共同参画審議会はとてもやりやすい。

その形式を続けてほしい。 人数や回数を増やして欲しい。

ハラスメントについては取り上げられているが、人権教室を企業や各種団体などでやる必要があるのではないか？

委員

全ての方に気付きがあればいい 意識の醸成は簡単にはいかない
継続する取り組み、新たな取り組みなどで少しずつレベルアップしてもらいたい。

委員

成年後見制度、消費者被害の未然防止など役場がどう関係して、職員がどう動くか協力体制でも
っと上をめざしてほしい。意識付けを職員を含めてお願いしたい。
市民後見人は今後足りなくなる。高齢化社会になり、社協でも全部引き受けられなくなる、人の
確保をお願いしたい。

上島健康福祉課長補佐

できることを地道にあきらめずに行っていきたい。

久保高齢者支援課長

後見人制度の利用人数は増加している。確保したい。

③高齢者福祉の充実

《評価》

委員

妥当 意識調査の数値 サービス満足度は目標値をクリアしている。CですがBに近い。

委員

妥当 P 3 1 3 ③振り返りはそのとおりと認識しており評価する。

委員

妥当 成果指標が上がっている。総括でもさまざまな取り組みを実感している。

委員

妥当 指標の①は低い年代別を見ると70歳以上の数値は高い当事者は満足して
いる。総括の内容をこれだけやっていたら十分である。今の取組を強化して高くなるのであれば、
意味のある取組である。

《今後の取組について》

委員

施策の課題認識はいいと思う。現場主義を大切にして欲しい、介護人材は負担があり、働き甲斐
のある職場になるように取り組んでほしい。

介護ネットワークの会議に参加したが、素晴らしい取り組みである。町民にも情報提供してほし
い。ちなみに成年後見の中核機関の設置とは→(佐々木補佐)さきほどの説明のもの

委員

介護の人材の強化は取り組むべきことではないかと思っている。民間機関同士、公と民間のスムーズな連携に期待。

委員

介護予防教室を評価

柔軟な、一時保育の老人 ver を子どもと同様にそんなサービスがあったらいいのではないか？
学生の介護現場体験、介護に興味のある学生と連携して予防教室などが、学生との関わりが高齢者のやりがいになるのではないか。

委員

ハードよりもソフトの充実が必要

介護人材の育成が必要 人数も必要だが、素晴らしい人材をどう育てるかが必要
少数の意見に惑わされず、職員として理念を持って事業を進めてほしい。

高谷高齢者支援課長補佐

サービスは事前にケアマネと相談して進めている。定期的にショートステイなどはできるが、柔軟な対応は課題になっている。今後、需要はあるとおもう。人手の関係では今の介護の現場では難しい。人手の部分では、アンケートでは大変だけど、やりがいがある。という意見が多い。
中学校の授業に介護現場の人を連れて行っている。介護チャレンジは学生だけでなく、高齢者や受け入れた事業者にも、感謝された事業であった。介護の現場の人が、しっかりやってもらえるように支援していくのが必要だと思っています。

久保高齢者支援課長

運動教室について介護予防事業で重点をおいている。元気時間を長くというのが全国的な流れで、本町も取り組んでいる。

「少数の意見惑わされず」、という部分については、全体を見ながら。

委員

信念というよりも将来を見据えたものにしてもらいたい。